

国際エステティック事業協同組合 (関東信越厚生局関厚発第 1001046 号)

エステの社会的使命大きく前進

女性刑務所でエステ職業訓練はじまる!

法務省は女性だけを収容している栃木刑務所(栃木市)で、受刑者におこなう職業訓練にエステを導入することを決めました。4月からの新年度から、エステサロンで働くエステティシャンを養成する「総合美容技術科」を新設します。エステ先進国のフランスなどではすでに先行事例がありますが、日本で実施されるのははじめてです。エステの訓練教育を派遣するのは国際エステティック事業協同組合(吉田理事長)。

下野新聞社提供 1月21日付同紙より▶



正月の全国各紙が 取り上げた 画期的ニュース

職業訓練は、生活態度がよく将来働く意欲の強い受刑者を対象におこなわれています。首都圏のサロンからプロのエステティシャンを刑務所内に招き、バックや脱毛、マツサージ、化粧の施し方などを半年間、計720時間で学びます。接客の方法も身につけ、修了時には国際エステティック事業協同組合が修了証明書を発行します。

今年正月そうそうに全国紙、地方紙でこの画期的なニュースが大きく取り上げられ、話題が集中しました。

もっとも詳細な報道は栃木エリアの地元紙、下野新聞でした。女性受刑者だけを収容する栃木刑務所(福地美恵子所長、受刑者約820人)で1月15日におこなわれた総合美容技術科の訓練で、淡いピンク色の作業服を着た6人の受刑者が参加した職業訓練風景が写真入りで紹介され

ました。

国際エステティック事業協同組合が派遣した講師が、顔型の人形を使ってフェイシャルトリートメントの手順を丁寧に講習しました。授業では、受刑者は熱心にメモを取っていました。

栃木刑務所はこれまで、美容師の資格が取得できる美容科など4科目がありました。雇用、就労機会が多いとの見方からエステを導入したといわれています。3月までは試行期間で、受刑者6人が美顔術の「フェイシャル」、足裏をマツサージして血行をよくしたりストレッチを和らげたりする「リフレクソロジー」を学んでいます。

エステティシャンは、受刑者のあいだでは「一種あこがれの職業」ともつけとめられて、試行にあたり受講の希望者が殺到、約15倍という狭き門になりました。半年間(350時間)の訓練を経て試験に合格すれば、同組合の認定証が与えられます。

職業訓練に講師を派遣する国際エステティック事業協同組合の西尾真樹子副理事長に聞くと、

「女性には結婚、出産、介護と、人生に幾度も節目があり、更年期には心身の衰微に悩む時期もあ



栃木刑務所

ります。その節目を経験し、不幸にして受刑者になってしまった女性の立場で第二の人生のありかたは考えられるべきです。そのような人たちが一度と犯罪に手を染めないよう、実際に役立つ職業としてエステティック技術を習得し刑を終えて社会に出て再び迷惑をかけないための教育をめざしたい。エステは比較的「天賦の才」を必要とせず積み重ねから蓄積される才能を要するものです。社会復帰を果たすことは社会貢献に寄与することと考えています。多くの業界の皆様にも参加していただきたい」

と今後の抱負を語りました。

晴い話ばかりの昨今、やっとエステが元気になる話が出てきたようです。

オンブズマンを募集します!

組合では、ストレス社会のなか、アロマ、リフレ、癒し、リラクゼーション・スパ、代替ケアの活動にも力を入れてまいります。

業界浄化に取り組む国際エステティック事業協同組合

(関東信越厚生局 関厚発第 1001046 号)

サービスに不快感をいだいている消費者のために、劣悪な労働条件に苦しんでいるエステティシャンのために、業界団体の名のもとに公然とおこなわれる私益誘導、私たちは業界内の不正な動きを厳しく監視するオンブズマンを求めています。本来の真のエステティックを目指して行動し、従来のかたよったエステのあり方の構造改革に邁進します。国際エステティック事業協同組合は下記の活動をおこなっています。組合員の募集をしています。

アロマセラピスト
育成セミナー
アロマセラピスト
資格認定支援

独立開業するための
経営企画

出版活動
組合員の
商品販売企画

苦情相談、
困りごと相談
なんでも
相談受けます

ボランティア活動

オンブズマン活動
全国 1000 人の
エステお目付け役に